

未来を創造する教育

これまで、小宇宙である人間と人類について、多くの角度からお伝えしてきました。13号は、教育の本当の意味を問い、そして未来を求めるものです。

1. 教育と人類

知識伝達のプログラムを持つ人類

我々は、今、ここにいます。宇宙の絶対太陽から創造の光、神々の火花として魂が始まりました。そして、魂の宿る物質としての肉体を持って、ここにいます。魂と肉体という両極の間に霊、心理（サイキス）があります。そして、エゴと運命を持ち、一人一人の人生のプログラムを生きています。自覚しようとしまいと、我々は、すでにそのようなプログラムをかぞえきれないほど生きてきました。ですから人間は、一人一人異なった運命と役割を持ち、一人一人異なった内的な段階にいます。そして、すべての人が、地球上に存在しています。それは、いつもお伝えするように、進化を成しとげるためです。けれども、本当に進化を実現していくためには、ただそれを願うだけでは不可能です。進化をとげるための知識— 叡智が必要です。無知がすべての問題を生み出しています。全宇宙のすべてのものは、創造のプログラムの中で存在しています。人類には、進化のための知識伝達のプログラムが存在しています。その使命を持ったリーダー、マスター達も存在しました。人類に進化のための知識を与えるもの、無知をなくすもの、それが本当の教育です。そのような教育が、人類一人一人に、天性の開発と開花をもたらすものです。本当の教育は、我々の眠りこけた意識をめざめさせます。

教育の流れ

12号でも説明したように、人類の起源、すべての文明の起源に叡智が存在しました。ですから、頓廃のない古代文明時代の人類は、黄金の春の時代を進化していきました。人類は叡智を持ち、シンボルや瞑想、実践、そして自然を通して学びました。この時代の教育は、意識を開発させるためのものでした。瞑想と儀式によって、深い総括的な知識を象徴的に教えました。ですから、一人一人がシンボルを観察し、瞑想し、自分自身で感じとり理解したのです。それは、現代の教育とは、大変異なります。なぜなら、観察と瞑想という時、そこには一人一人の

内的なエネルギー、成分の活動があるからです。そこでは、自分自身による自分自身の内的な開発、培いがあります。だれに依存するのでもありません。だれからの強制もありません。自分の意識のめざめ、感性の深さによって吸収し、学びとっているのです。それらは、1つのシンボルを通して学ぶものでありながら、1つ1つが宇宙のすべてに通じる総合的な知識でした。自分自身で、シンボルにこめられた神秘にのみこんでいくのと、だれかに解釈してもらおうのとは、全く異なります。そのようにして得たものは、我々の意識や魂にまで至ります。だれにも奪われることなく、永遠に残ります。そのような積み重ねによって、さらに意識をめざめさせ、本当の内的な創造をめざしたのです。

これらの古代文明時代が終わり、銀の時代になると、人類はより多くの部族に分かれていきました。それによって総合的な知識も分岐していきました。そして、銅の時代になると、人類の頹廃と墜落が始まりました。この時代に当たるギリシャ時代に、教育の流れが大きく変わり、現代の教育の芽が生まれました。プラトン、ピタゴラス、ソクラテス、アポロニウスなどの哲学者達は、意識のための教育を行いました。しかし、アリストテレスや政治家達はこのような教育に反対し、理性を重視する教育を始めました。理性は人間だけが持つものですが、知性（インテリジェンス）ではありません。知性は意識と同じく、魂に属するものです。理性は我々の心理に属します。脳の機能に、データバンクとしてのインテレクト（頭脳、理屈）がありますが、そのインテレクトの機能としてあるのが理性です（3号参照）。そうすると、意識のめざめ、知性の開発と一体となった理性でなければ、本当に働くことはできません。そうでなければ、どんなに理性を開発させても、我々の進化に役立つものではありません。それどころか、ただ概念の渦に巻きこまれ、インテレクトの中に詰まった情報のごみに埋われてしまうことになります。そして、頭の中が理屈や概念だけであかれているのに、それですべてを知ったような落とし穴に落ちてしまいます。インテレクトや理性を開発しても、ただそれだけでは、単に習い知ったことのくり返ししかできません。自分自身の内からわきあがってくるものはなく、そして自分の内奥にまでメッセージを受け入れる意識の目、感性の扉は開くことがありません。ですから、内的な創造をしていくことはできないでしょう。

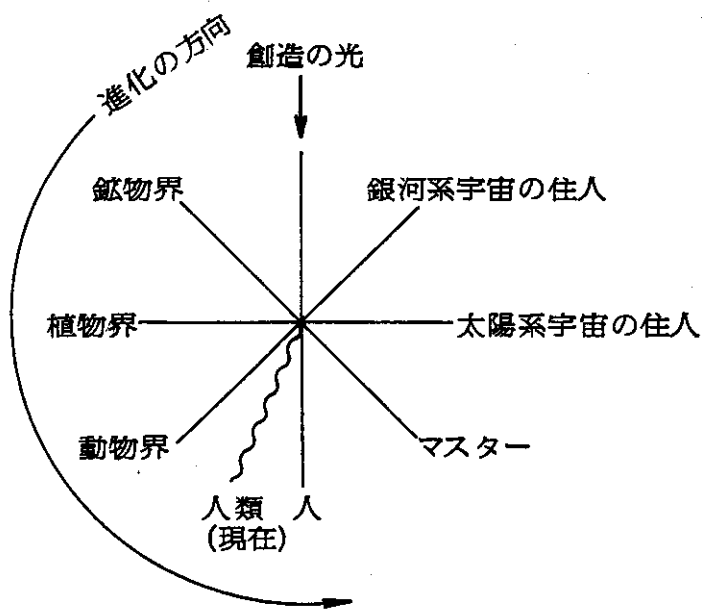
このような偽りの教育が全ヨーロッパへ、そしてアメリカへと広がっていきました。それらは、広まる間に、さらに物質的な機械的な教育となっていきました。日本は、長い鎖国によって、これらのまちがった教育の汚染を避けることができました。しかし、開国の後には、そのような欧米の影響を受けてきました。そして、現代の世界中の教育は、このインテレクトを基礎とする、大変表面的な教育となってしまいました。日本だけでなく、どの国においても教育の問題をかかえ、模索しています。かつて存在した叡智は、人類の分断とともに細分化され、真実を知ることが困難になっています。でも、現在は光の時代です。これらの細分化

され、あまりにも部分的になってしまった知識を、再び一つに結び合わせ総括する時が来ています。現在、我々は、最後の大変集中した総括的な時代にいるのです。

教育とはなにか

教育とはなんですか？そう問われたら、皆さんはどんな回答をするでしょうか。教育と言うと、まずなにを考えますか？一般的には、いわゆる学校教育、小学校から中学、高校、大学までの教育のことを考えるのではないのでしょうか。あるいは幼稚園からでしょうか。このように、教育とは公の教育制度によって行われる教育のこのように思われがちです。でも、そうでしょうか。教育とは、文字どおり教え育てることですが、こういう意味があります。人間に対して、他から意図をもって働きかけ、望ましい姿に変化させ価値を実現する活動、このことをよく考えてみましょう。そうすると、まず初めに、人間の望ましい姿や実現していくべき価値とはどのようなものか、正しく理解する必要があります。それがなければ、本当の教育は見えてきません。真の価値を実現していくための、本当の働きかけをしていくことはできません。教育とは、どのような社会、どのような民族であれ、人間にとって必要不可欠なものです。我々は、生命の誕生した瞬間から、外部の環境からの影響をすべてキャッチします。母親の胎内にある時から、一瞬一瞬すべてを感じとり、育ちます。それらすべてが、我々の自己形成に関与してきます。このように、教育とは、我々が生きていく中で、絶えまなく受けとり続けるすべてのもののことを意味します。ですから、本当の教育を求めるためには、我々人間の存在理由、創造の目的から問わなければなりません。そして、学校というごく一部の場ではなく、我々が生きていくすべての場を問いなおさなければなりません。

我々はだれでしょうか。動物ではありません。けれども、完全なる「人」でもありません。人間である我々が、完全なる人になるために、その進化の過程の途上にあります。動物は、犬なら犬という種としての集団霊によって存在しています。一匹一匹の持つ動物本能は、自然界の知性、意識によって導かれています。ですから、動物は自分の個

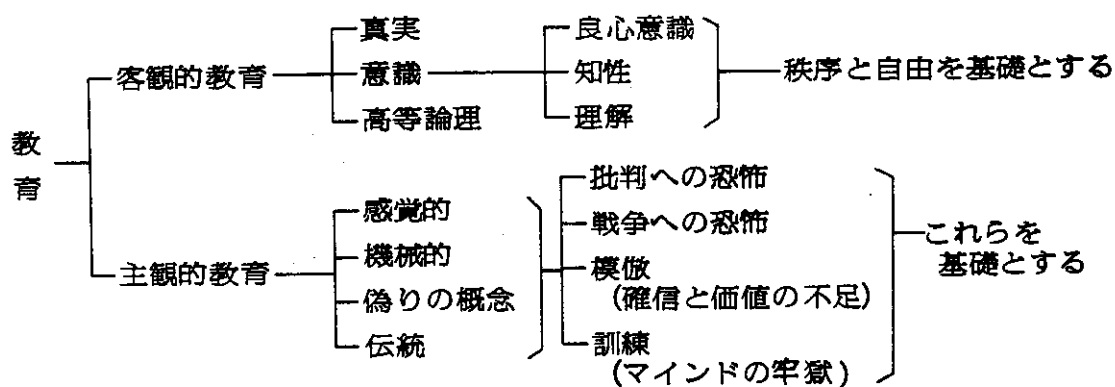


別の霊を持たず、すべて自然界の導きのもとに存在しています。しかし、我々は、1人1人個別の霊を持ち、自由を与えられています。そしてだれでも、ある程度の意識のめざめを与えられています。それは、人間の存在の目的のために与えられています。もう、何度もお伝えしてきたように、我々人間は、完全なる人、太陽人間になるために、ここに存在しています。我々1人1人が、自分自身の意識をもって進化を達成し、人生を実現していくために、ここにいます。この宇宙の中で、さらに有益な存在となり上昇するために、この地上にやって来ました。我々人間が実現すべき真の価値、それは進化にあります。そして望ましい姿とは、エゴ根絶を成しとげた完全な人です。そしてさらにイニシエート、超自然的な存在になることです。ですから、真の教育は魂の進化のためにあるものです。我々1人1人に、存在の意義と、この人生を理解させるものでなければなりません。我々が、自分自身でそれを理解していくことができるように、進化のための知識を伝えるものが本当の教育です。それは、無知の闇にある我々の意識をめざめさせ、我々の魂の天性を開光させるものです。そして、意識の底にまで浸透し、最も奥深くから準備させるものです。真実の教育こそが、人類を無知から解放し、煩瑣をくい止め、人類の未来を創造していくのです。

2 教育のもたらす進化と退化

2つの教育

教育は、すべての人にとって、またすべての分野において必要不可欠なものです。我々がなにかをしようとする時には、それがどのようなことであれ、それをするための考え、知識が必要で、行動に移る時には、まず初めに、その行動をとらせる思考が存在します。ですから、我々が進化しようとするなら、どのようにしたら進化できるかを知らなければなりません。進化のための知識を、1人1人が自分に適用し、実践し、生きていくための、完全な知識伝達のシステムが、正しい教育と言えます。古代文明の時代には、そのような教育が行われました。しかし、教育の流れは分かれ、現代に至っています。それらの2つの教育について



て、理解を深めたいと思います。そして現代の教育が、これほどまでに問題になっているのはなぜなのか、結局、どこへ行きつくのかを求めたいと思います。

偽りの教育

これは、我々の理性やインテレクトを重視し、それらを開発していく教育です。インテレクトは、コンピューターのようなものですから、まず、そこにデータを入れなければなりません。そして蓄積されたデータを引き出すことによって、初めて働くことができます。ですから自分が蓄積したものによって、すべてを判断します。目の前に示されたもの、すべてをインテレクトの中のデータと照らし合わせ、それが一致すればイエスであり、そうでないものはノーです。すべてが〇か×かしかありません。その上、蓄積されたもの以外は、なにも引き出すことはできません。ですから、自らの内からこみあげてくるものはなく、創造は生まれようもありません。このような教育は、大変機械的で表面的なものです。これが現在、世界中で行われ、世界中で失敗を招いている主観的な教育です。これはまた、我々の感覚に基づくものですから、肉体の五感に制限され、肉体を越した物質の世界にのみ目を向けさせます。物質的な教育は、肉体的に物質的に確認できるものだけを扱います。そのために科学的な実験を基礎とし、その証明が成されたものしか認めません。ですから、我々は、大変表面的な制限された枠の中にとじこめられてしまいます。そして、物質的な生産と消費という外的なことに価値を認めてしまいます。我々は、魂の進化のために、ここに存在しています。そのために肉体だけでなく霊も与えられ、意識や知性、また超常機能など多くのものを与えられています。そのような存在である我々にとって、必要なことは、外的なすべてのことを内的な進化のために生かすことです。どのような時にも、外的な状況を内的な進化のために生かしていけるのです。それを学び理解しなければなりません。

また、このような教育は、伝統や慣習、そして世間的な情報や概念をそのまま機械的に受けつぎます。昔からやっているから、偉い人の言ったことだから、そしてみんながやっているから……だから無意識にそれをくり返します。考えるのがめんどろだから、そして保身のためだからと、それをそのままくり返します。なぜ、それをするのか、しなければならぬのか、無意識のくり返しがどういうことなのか、そのように問い、考えることを教えません。伝統は、我々の財産や経験として生かしていくことができます。でもそれは、さらに前進するために生かすのです。ただ盲目的にくり返し、自分を過去に引きずり停滞させるためではありません。我々は、それらが行われた時代ではなく、この現代を生きています。未来を生きるために、今を生きるのです。なんのために、ということも考えず、ただ水が流れるままに流されていくのではなく、さらに高く向かうためにすべてを生かさなければならぬのです。かつて、叡智を手に入れるために、社会と隔絶した山奥などで修業生活を送った時代があったとしても、この現代にそれをす

る必要はありません。今は、大変なスピードで変化していくエレクトロニクスの時代です。そして、すべての扉が開かれている光の時代です。そのような状況の中で、社会を離れて特定の共同生活をしたり、一人で修業することは、むしろ、この時代の中でとり残されてしまいます。社会の中で学び、トレーニングされることもなく、停滞してしまいます。また、すでにできあがっている概念——宗教的教義や科学的な理論、歴史的な考古学的な解釈、そして社会的な観念などについても同様のことが言えます。そのように教え、習ってきたというだけで、それらを真実として教え続けます。そして、たえまないテレビや新聞からの情報、コマーシャル、それらの氾濫する情報が、我々の周囲で渦を巻いています。それらはすべて、我々のマインドに至ります。そして、それらの偽りの概念や情報を、真実として記録していきます。それは、我々のマインドを病んでいくことです。マインドを停滞させ、退化へ向かうこととなります。これらの偽りの概念は、インテレクトのごみでしかありません。我々の脳を汚染させます。我々が新しい情報、真実に出合った時、扉を開きチャンネルを開く妨害になってしまいます。

このように、理性、インテレクトを重視する物質的な教育は、我々のアンバランスを招きます。我々を個人的にも社会的にも、段階的に汚染させます。そして、人類を退化に向かわせます。そして、ここまで来てしまいました。でも、たがえてしまった道なら、もともどもどらなければなりません。道を正すためのコンパスはどこにあるのでしょうか。ここで、ちょっと考えてください。我々は日本人で、だれでも日本語を話します。それを、だれも疑問に思いません。でも、「日本中の子が日本語をしゃべっている！なぜだろう。」と、飛びあがって驚いた日本人がいます。皆さんは、このことをどう思いますか。これが意識のめざめというものでしょう。この問いを発した人物は、その中に教育というものの鍵を発見したのです。それを、我々もつかみたいと思います。彼の著書に、こんなことが書かれています。音痴に育った子、つまりまちがった音程で覚えてしまった耳を、正しい耳に育てた話です。ファならファの音を少し高く覚えてしまった過去、そのまちがったファの音はなおせない。できることは、新たに、正しいファの音を、これまで聞いてきた音以上に、何千回も聞かせることだということです。そうすると、初めはだめでも、少しずつ正しい音を発するようになり、ついには正しい音が上回り、それが完全に身につく、成功したということです。このことは、我々に非常に多くのことを教えます。まちがった教育はまちがった結果を生むということ。そして、偽りの教育、知識は、正しい知識と教育によって変換していけるということ。正しいものを知ることによって生ずる動き。正しい知識を獲得するまでに通らなければならない過程と、その人の内部で起こる変化。そして、真実の記録と理解。初めは、これまで信じて来たものを捨てられず、全くの拒否や半信半疑がもしれません。でも、理解する度合につれ、疑問もとけ、最後には、完全な理解に至ります。そのようにして、偽りの記録を改め、無益なものを捨てていけま

す。この過程は、本当に内的なものです。そして、全面的に変換できない間は、心理的にはどっちつかずの、苦しい時期も通過します。ちょうど、古いペンキをはがし、新しいペンキを塗りなおす作業のようにです。途中は、きたない状態があっても、新しいペンキを塗りおえれば、きれいになります。苦しみのために、なにも知らなければよかったと思う人もあるかもしれませんが、でも、このような作業は、本当にすばらしいものです。それは、我々一人一人の内部の動きを起こさせ、成分を活動させます。それまでとじていたチャンネルを開いていくのです。そして我々自身の痛み、苦しみを通して学び意義をめざめさせます。それは、自分自身で真実をつかみとり、理解していくのです。自分の最も奥で起こった変化と、手に入れたもの、それは、自分自身の中に永遠の価値として残ります。このように、正しい教育は、偽りの教育を補い、改め、バランスをもって真実へと導きます。

主観的教育の失敗の原因とその結果

現在の教育は、古代からの智慧ある教育を受けついだものではありません。理性やインテレクト、肉体と物質を相手にする主観的教育です。それは、多くのまちがいを犯してきました。その失敗の原因を考えてみましょう。

①恐怖——偽りの教育は、人々を恐怖にかりたてます。そして、人類を混乱と愚に追い込みます。我々は恐怖のためにどれほどのことをし、そしてまた、どれほどのことをしないでしょか。自分の意志で行動しているように思いこんでいても、深く自分の内を観察していけば、恐怖の存在を発見するでしょう。学校の勉強、社会の中での諸々の試験、就職、結婚、離婚、他人の目や言動、そしてけんか、戦争……恐怖のエゴのために、いかに縛られているか自覚すると思えます。

②模倣——この教育は、自分で本当に考えるということをおしやしません。そして、さらには、考えることがめんどろになります。ですから、人々は枠の中において、そこから出ようとしません。すべて模倣しあい、社会の流れ、流行に流されていきます。そして枠からはみ出る人々を批判します。このような状態では、確信できるものを手にすることはできません。そして、なにが価値あるものなのかもわかりません。それでは、ただ目の前にある物質的な、外的なもので自分をごまかすしかありません。天才や偉人はどうでしょうか。アインシュタインもエジソンも、自分のインスピレーションを持ち、それを生かしました。ベートーベンもモーツァルトも、自分自身の創造を成しました。こ



のように、外的なものにかわりを求めるのではなく、内的な価値を創造していくことが必要です。模倣は大変なまちがいであり、社会的な病です。自分自身で考えることを知り、意識をめざめざせていくなら、だれかの目を気にしたり、まねをする必要もなくなります。自分自身の本当の意志で、自分の行動をしていけるようになります。

③まちがった訓練——社会の中で、このような過激な訓練があってはなりません。訓練は秩序ではありません。訓練の起源は秩序だったかもしれませんが、それは秩序が頑廃したものです。人々を命令に服従させ、奴隷にします。我々のマインドを型にはめこみ、大変鈍感にします。戦争や軍隊のことを考えてください。まちがった訓練は、人間を機械にし、感覚を麻痺させていきます。我々にとって必要なのは、自由と秩序です。バランスのとれた秩序と自由です。かつてのヒッピーだけでなく、多くの若者が訓練や管理されることを拒否し、自由を求めます。でも、秩序のない自由は、無秩序の頑廃に落ち入ります。性の解放が、全くの性的頑廃であること、中絶や自殺が解決どころか、大きなまちがいであることを知りません。自分のしていること、自分に起こっていることを理解できません。意識の無さ、意識の不足ゆえに、まちがいを犯します。偽りの教育によって、意識を開発していくことができないからです。

初めに書いたように、我々は一人一人、異なっています。外見的にはではなく、内的にです。ですから、我々人間は、究極的には魂の起源、至高への帰還をめざすものですが、一人一人、自分の開発し実現すべき価値、この人生で果たさなければならぬことを持っています。そのように、一つ一つの段階を修得し、実現していくことによって、最終的な魂の故郷へ至れるわけです。そのために、肉体も、おかれた環境もすべて異なります。そして、自己の価値を実現していくためには、それなりの教育と努力が必要です。だからこそ、自由と秩序が尊ばれます。一人一人の意識ある歩みこそ、価値があります。しかし、主観的教育においては、そうではありません。魂の最終的な表現としての肉体、この物質の次元にすべての価値を見出しています。ですから、一人一人の内的な価値を認めることができません。個人の自主性や個性を認めず、一つの枠の中に押しこめ管理することが教育のようになってしまいます。このような教育は、どんな結果を生むでしょうか。それは機械的な人間であり、欲求不満の人物です。人間は一人一人別である、ということを認められないために、社会全体がすべての人を一つの箱の中に入れようとします。コンピューターという機械による試験、管理、そして教育が行われます。人間は機械のように扱われ、本当にロボットのように、人間機械(テクノクラタ)になってしまいます。無意識に、物質的な生産に明け暮れる人間を生み出します。そして、既成の価値の枠から出られない人間を生み出します。良い成績、有名大学、一流企業……それらが実現できなければ、人間として落伍者のように思ったり、思われたりします。でも、我々の意識は、それが偽りであるこ

とを知っています。だからこそ、多くの人々が、なぜかもわからずに欲求不満に陥ります。そして、どうしてよいかわからずにいます。それらが、登校拒否、自閉症、暴力、自殺、犯罪とまちがった形で表われます。正しい教育がないために、今のまちがいを正しく理解し、どうしていくべきかを知ることができません。また、このような偽りの教育を拒否し、独学の道を進む人々もいます。その中でも、アマチュアの研究者や芸術家のように、自分自身のものを見つけていける場合と、ただ抵抗することしかできずに失敗していく場合があります。

このように、偽りの教育は、我々の意識を眠らせ、考えることを忘れさせ、脳を頑廃させ、我々自身を病んでいくような教育です。そして、人間を退化させていきます。それは、だれも望まないでしょう。一人一人に、自由と秩序がある時、我々は本当の可能性を持ち、実現に向かうことができます。そして、本当の教育によって、一人一人が、自分で自分の問題を発見し、解決していけるようになるのです。

真実の教育

我々の創造の目的はなにか、向かうべき方向はどこか、それなりにつかんでこられたと思います。我々の目的は進化です。そして魂の天性の開花です。ですから、本当に我々に必要な教育は、天性の開発と進化のための教育です。そして、だからこそ、意識を開発しめざめさせるのです。意識は真実を見させ、本当の現実を見させます。そして、意識が本当に働くためには、知性を開発する必要があります。



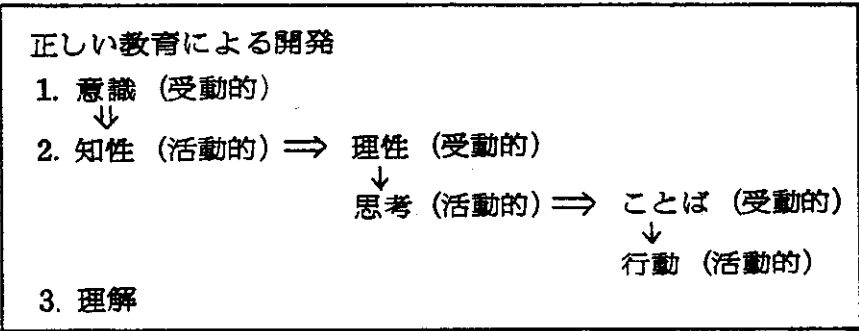
意識と知性の開発が、我々に、すべての物事の本当の理解を与えます。意識のめざめによって、自らが問いを発し、考え、判断し、答を見つけていけるのです。それゆえに、本当に責任を果たすということが出来るのです。これが本当の知的力、知性（インテリジェンス）です。インテレクトとの違いを、観察してください。このように、正しい教育は、段階的に意識をめざめさせ、無知をなくしていきます。そして、真実を教えるものであり、一人一人に自分の内的価値と人生を理解させるものです。それは、外的なもの——他人や物質を相手に生きる無意味さを、我々に理解させます。それによって、すべてのことを進化のために生かし、自らが真実を生きることになります。だれにも、なににも依存することのない、本当に独立した自由な人間を

育てていくのが、真実の教育です。このような高等教育は、猿鹿のない時代には、ごく普通の教育でした。だれもが教智を学ぶ機会を与えられました。しかし、人類の退化とともに、秘密に限られた人々に伝えられるようになりました。愚用や冒瀆から守られ、受けつがれて来た教智は、現代に至って、再び総括され近代化され、公にされました。人類は、もうこれ以上の猿鹿はできないほどのところにいます。そして、なにが、どこにあるかもわからず探し求めています。でも、どこまでもあきらめず探し続けるなら、必ず真実を発見するでしょう。

理解とは

我々はなにかを聞いたり習ったりすると、それはもう「わかった」と思います。そして、わかっていながらできない、しないことが、たくさんあります。このことを考えたいと思います。

正しい教育は、我々の意識と知性を開発し理解へ至らせるものです。意識と知性は魂の働きです。それらは、魂のエネルギー、



神のエネルギーの2つの部分です。だれでも生まれた時は、3%の意識のめざめを与えられていますが、それは、人生というトレーニングを通して、100%、意識をめざめさせていくためです。そして、知性は、だれでもが持っているわけではなく、1人1人の自発的な努力によって開発し、獲得していくものです。我々の意識を活動させるために知性があります。ですから、同じ魂のエネルギーでありながら、意識は受動的なものであり、知性は活動的な能動的なものです。その知性の活動を表わすために、理性が働きます。理性は心理(サイキス)の働きです。知性の活動を受けとめる受動的な力です。ここで、もう一度、理性のことを考えましょう。理性は、人類すべてに与えられています。これが動物との違いです。けれども、人間が手に入れなければならないのは、開発された知性です。そして、知性の活動と結びつかない理性なら、ただインテレクトに詰まった情報を引き出すことしかできません。このようにして、いかに多くのものを引き出せたとしても、それは知性とは関係のないものです。ですから、意識をめざめさせ、知性を開発しなければなりません。理性に伝えられた知性の活動は、思考として表現されます。知性と理性が思考を生みます。その思考を表現するのが、ことばであり、行動です。ですから、我々は、あらゆる行動の前に、考え、話すのです。そして、まちがった思考は、必ずまちがったことばや行動に導きます。ですから、偽りの情報によって、すでにできてしまった思考を、いかに除外していくか、変

換していくかが重要です。正しい思考を持たない限り、我々の言動を改めていくことはできないのですから、正しい思考を持つためには、意識と知性の開発が不可欠です。真実が見えるように、そして、真実を生きることができるようになる。このような、行動を変換していく過程は、我々を真の理解へ導くものです。理解とわかることとは違います。頭でわかって、行動に移せない間は理解ができていないのです。泳ぎ方を知っていても泳げない。また、体に有害とわかっていても、好きなものを食べてしまう。これは理解ではありません。わかる、知る、それで理解したと思っているのです。理解は、一人一人の内部での納得と、それをすぐ実行に移せる内的な状態が確立されることです。そして、さらに次の段階は直観です。これは、あれこれの説明なしに、直接、感覚的に真実の情報を受けとり、理解することです。直観的に感じ、意識することです。ですから、肉体はここにありながら、宇宙を実感として感じるような、宇宙意識にまで至ることもできます。

ここで、2つの例をあげたいと思います。ある公民館での話です。保育室で、何人かの子どもが遊び終わって、1つのマットを全員でかたづけている時のことです。1人の子だけが産りこんで動きません。いろいろ言われても、全然動こうとしません。1人の保育士が「〇〇ちゃんがマットを持たない分だけ、みんなは重くなるよ。〇〇ちゃんは楽かもしれないけど、みんなも疲れてるし、みんなが大変になるよ」と言いました。そのとたん、その子は立ち上がり、マットと一緒に持ち運びました。皆さんは、たわいもない話だと思うでしょうか。小さな幼児の意識と理解の力に驚かされませんか？だれでも、このようにすなおに感じ、即、行動できるでしょうか。もう一つの話は、1人の小学1年生の話です。入学後まもない下校時のこと、校門近くで1人のセールスマンが、1年生にチラシを配っていたそうです。いわゆる学習書や塾のチラシを、お母さんに見せるように配っていたのです。みんな、それをもらって帰って行きました。ところが、1人の男の子は、セールスマンがしつこく手渡そうとするのに、決して受けとらず帰ったのです。「お母さんは、学校の勉強をちゃんとやっていれば、それで大丈夫だって言ってた。僕は僕でいいから、いらない」と言ったので、セールスマンは怒って、しばらく追いかけてきたというのです。なぜ、この1年生は、こわい大人にも負けず、チラシを受けとらなかつたのでしょうか。彼の意識は、それが不要なものだと理解しているからです。彼の意識のめざめが、そうさせます。子どもは、大人以上に意識がめざめています。3~5才くらいの時が、最もめざめています。しかし、3%ある意識のめざめは、だんだん減り、大学を卒業したり、大人になるころには、1%にまでなってしまう。これは天国と地獄ほどの違いだと言われます。ですから、子どもたちはあどけない言葉やしぐさで、大人が目を見張るようなことをするのです。ここにあげたちょっとした話からでも、人間の持つ大変多くのことを見させられます。そのように、身近な日常のできごと

すべてから学んでいきましょう。そして、なぜ生まれてきたのか、自分はなんであるのか、どこへ向かうのか、自分の人生を理解していきましょう。理解が、我々に内的な平和、幸福をもたらします。

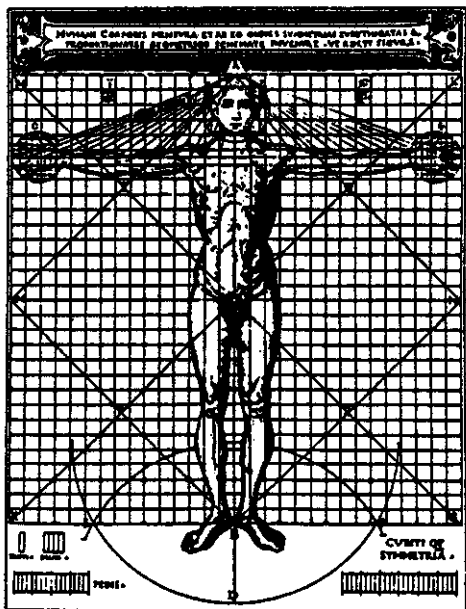
3 正しい教育による人間の変革と再生

インテレクトに重心をおく主観的教育と、意識と知性に焦点を合わせる客観的教育、この2つの違いについて説明しました。それは、我々人間を退化と進化という、全く反対の方向に導くものです。偽りの教育は、インテレクトだけを開発し、我々のマインドは病む一方です。このマインドは、心理の一部ですから、我々の心理を病んでいくことになります。心理は、魂と肉体の間において、両方の媒体として、2つの調和のために存在しています。ですから、偽りの教育は、我々全体をむしばんでいきます。我々の、全体的な不調和、アンバランスをもたらします。偽りの情報、概念によって脳を頑廃させ、インテレクトだけが開発されます。インテレクトは、インテレクトを栄養にします。そして、我々のすべてを、自分（インテレクト）がコントロールしたいと思っています。そして、岩のようなマインドの傘をかぶった状態は、我々の感覚を大変鈍らせます。ですから、直観的に、感性によって真実をキャッチし、理解することができません。我々が、1つの理解に到達できない間、そのままの段階から動くことはできません。ですから、今の枠の中から出られません。理解によって初めて、次の段階へ上昇します。1つ1つの段階の理解は、その人なりのスピードで進みます。1週間で通過する人もあれば、1年も、さらに数年もそこにとどまる人もあります。そして、一生、動かない人もあります。自然界の中で、急激な変化、ジャンプはありません。すべての過程を必ず通って変化していきます。

正しい教育は、我々の進化の目的のためにあります。それは、我々の通過する1つ1つの段階を理解させ、修得させます。そして、確実な上昇、進化に導きます。それは、調和をもって、自分自身を開発していく教育です。恐怖や訓練によって強制されることなく、他人から独立して、自分自身の意識ある行動によって成しとげるのです。我々の意識の目を開き、魂の天性をひきだすことのできる唯一の道です。正しい教育が、すべての人を調和的に、段階的に変革していきます。偽りの教育が、段階的に頑廃へ、狂気へと突き進むのとは、全く逆です。ここで前にあげた、音痴の耳をなおす話を、もう一度思い出してください。まちがって覚えた音はなおせない。しかし、正しい音を聞かせる。これは、まちがった教育、偽りの情報に対して、まちがいだからといって、それを突然、とりさってはいけない、ということを教えます。とりさるのではなく、正しい教育、正しい情報を与えなければならないのです。そして、それから先は、すべて本人の内部で行われるものであるということです。その人の内部では、大きな動きが生じます。2つのものの間で揺り動かされます。初めて生じた動きが、次の動きを起こさせ、

次々と、大変多くの内的な成分が活動します。そして、その人の内部に、少しずつ正しいものへの理解がふえるにつれ、その人自身が変化していきます。それは、その人自身がそうしているのです。それは、その人の内から生じた理解によって変わるのですから、真の変化です。調和のある変革です。自分で考え、自分で判断し、自分の必要性によって行動する。そして獲得する。これが、自発的な意識ある行為です。ですから、それが心理的に苦痛を伴うものであっても、苦しむ理由を理解し、その苦しみを味わいつつ幸福に至ることが出来るものです。

このように正しい教育は、すべてに調和をもって進みます。我々の思考、感情（エモーション）、運動（動作）において、完全なバランスが存在します。正しい思考、自分自身の思考、それは、意識と知性が生み出します。自分で考えることができるということは、自由であるということです。偽りの教育においては、まちがった思考に結びついてしまいます。感情（エモーション）とは、なにかをする動機、エネルギーを活動させる動機となるものです。なぜ幽体離脱ができるようになりたいか、なぜ超常機能を身につけたいか、そのような、なにかをしたい、という内からの励まします。正しい教育によって、本当に必要なものはなにかを知り、それが自分で、実現していけるものだということによって、正しい動機、励ましが生じます。今の教育には、その励ましが無いといえます。知識の細切れのような学習では、子どもたちに学ぶ励ましも喜びも与えられないでしょう。自分のアンバランスと醜態を招くものに、価値を感じる事ができないのは当然です。そして、多くの若者が、物質につく物質の生産や兵器産業で働くことなどしたくないと感じています。ですから、無気力になります。そして、正しい知識がないために、どうして良いかわかりません。それが、非行、暴力、犯罪と多くのまちがった形で表われます。我々の感情も開発していくものです。ですから、栄養を与えなければ弱ってしまいます。感情を豊かに耕し、高く開発して



いくためには、外的なもの、物質的なものを洗練していかなければなりません。我々の進化は、物質を洗練する道でもあります。この肉体を変え、見聞するものを変え、行いを変えていくのです。芸術やメッセージをこめた神話など、そして自然から栄養をもらいます。1つの美しいものを見るだけで、魂の栄養となり感情の栄養となります。そして、自分本意に求めるだけの行動、エゴに操られていた行動を、だれかに与える行動へ変えていく時、深い感情（エモーション）が生

まれます。なんの報いも求めずに、自分をささげる時、我々は最も高い価値を持ちます。それは、永遠の価値となるものです。

我々の開発は、魂の進化のために行うものですから、肉体だけを相手にするものではありません。持っているものすべてを開発していかなければなりません。

肉体の五感と超常機能、そして5つのセンター（2号参照）と2つの高等センター（5号参照）、それらのバランスを保って開発していく必要があります。長時間の勉強は我々の頭脳センターに、量の多すぎるスポーツは運動センターに、不調和を起こさせます。自分のエネルギーを使いすぎてしまったセンターは、他のセンターからエネルギーをとって使います。結局、性センターのエネルギーを盗むこととなります。その上、まちがった性教育と、いたるところでたえまなく与えられる性的な刺激のために、性エネルギーを消耗し続けています。すべて、過度なものは有害です。そして、反対の過少もまた、まちがいです。このように、1つのセンターのアンバランスは、全体のバランスをくずします。そして、我々の生命エネルギーである性エネルギーを失ってしまいます。周囲に目を向ければ、あ



まりにもバランスを欠いた現象に気づかされます。正しい教育、正しい知識が、すべてのまちがいを改めさせます。そして、1人1人に真の目的を教え、自己を変革していく助ましを与えます。そして、ある程度の知識を受けとり、それが1つでも自分のものとなったら、もう自分自身で開発していくことができます。自分が獲得したもの、その理解が次々と新しいエネルギーを活動させていき、新しいチャンネルを開きます。そしてそれが、さらに理解を生じさせます。それは、借り物の土台ではなく、自分自身の内的な価値の上に立つことです。このように、自分自身でバランスをとりながら、自分を変え再生していくことができます。

4 意識のめざめと天性の開発のために

我々の多くのまちがいは、眠りこけた意識のために起こります。そのために、エゴの存在にも気づかず、エゴを増大させ、さらに眠りこけ退化していきます。エゴに操られ眠りこけている間は、魂の天性の声を聞くことができません。けれども、我々は、1人1人の天性を開発し、進化するために生まれて来ました。これ以上、意識の眠りを深めることをやめ、少しずつ意識をめざめさせることが必要です。そして、1人1人が、自分の内的な価値を理解し、天性を開発していかなければなりません。意識をめざめさせる第一歩は、自己観察です。それは、一瞬一瞬、たえまなく自分に問いかけることです。そして、いつも存在の目的を問

うことです。なぜ？と問わなければなりません。なぜ、それをしているのか。しよとするのか。なんのためにここにいるのか。それによって、無意識のまろがい、機械的な行動を避けることができます。自己の内部に目を向け続けることによって、まろがった判断、空想や夢想を避けることができます。それらは、自分のまろがった内的な状態が作りあげる偽りです。ですから、自分自身の内部の心理的な動きと、外のできごとを区別することが必要です。それによって、問題と自分を一つに混同してしまうまろがいは避けられます。このように、常に自分を冷静に問い続けることによって、他人との口論、不必要な言動を減らし、なくしていくことができます。我々にとって重要なことは、まずなによりも、不必要な言葉、行動を排除していくことです。それが我々に、本当に必要な言動をとらせませす。自己観察をし続けることは大変重要で、いわゆる学校の中だけでなく、家庭や社会の中で、たえまなく見聞きするものすべてが、我々をつくりませす。ですから、常に目を見開き、なにが起きているのかを観察し、判断していくことが必要で、たとえば、たえまなくくり返されるコマーシャルがあります。ただ無意識でいるなら、それは一方的に、我々の心理の中に侵入してきませす。そして、ひとつの催眠状態になります。そして、我を忘れ、買ってしまうことにならませす。意識を失い、なぜ？と自分に問うことを忘れてしまひませす。子どもたちは、非常に多くの疑問を発しませす。遊んでいるように見えながら、一瞬一瞬、どうして？と意識の目を見開いてひませす。子どもたちは、大人のように難しい理屈は言ひませせん。でも、意識のめざめを持つゆえに、直接、意識に関連するものを求め、見ぬきませす。そして、直接、受けとりませす。こんな例があります。この通信を送っている一人のお母さんに、3才になったばかりの子どもがひませす。その子が、急に「エゴって知ってる？エゴっておばけだよ」と言ったのだらうで、そして、次の日に再び、「エゴは中にあるんだよ。」と聞いたらうで、大人の言葉を聞いて、ただまねをして言っているのではありませせん。そうではなく、この子の意識の段階ゆえに、それを言うので、

このように、すばらしい種を秘めてひませす子どもたちの、意識のめざめを失うことなく、そして天性を開発していくことは、本当に重要で、天性の開発のためには、胎内にある時から、正しい意図をもって育てなければならひませせん。つまり、胎教で、なぜなら、胎内にある時から、我々はすべて見聞きし、感じとっているからで、ですから、妊娠中から正しい教育がひませす。それが真の胎教で、それは、母親や父親自身が、正しい知識を我身で生きることにほかなりませせん。それは、この世に誕生した後も同様で、子どもたちは、理屈ではなく、両親や周囲の人々の姿、すべてを見て育ちませす。そして、環境にあるすべてのものを見聞きし、感じとって育ちませす。だからこそ、学校だけでなく、あらゆる場所で、あらゆることを問われるので、たとえば、妊娠中の性行為によって、胎内の子の形成している脳のエネルギーを盗んでしまひませす。そして、肉欲的なエネ

ルギー、そのバイブレーションを子どもに与えてしまいます。また、親が子どもの出産を望まないとか、天婦げんかが多ければ、そのエネルギーを感じとり、こだわり（トラウマ）となる場合もあります。胎内で経験するすべてのことを、我々は記憶します。ですから、見るもの、聞くもの、思うこと、行うこと、すべてを問われ、改めさせられます。暴力的な情報や場面を避け、怒りや憎しみ、恐怖などの一（ネガティブ）な心理状態も避けなければなりません。そして美しいもの、すばらしい芸術など、魂の栄養となるものを求めるようにします。それは、胎内にある子の天性を開発するためであると同時に、なによりも、母親や父親自身の進化のためになることです。また、与えられた3%の意識のめざめを失わないために、就学前の家庭での教育が非常に重要となります。持っている意識のめざめを停滞させ、頑廃させないための教育が必要です。それには、まず両親が正しい知識を理解していなければなりません。子どもたちに、あらゆる場所、あらゆる時を通して、正しい教育を与えていくためには、大人自身が正しい教育を身につけていなければなりません。大人自身が進化をめざし、意識をもって真実を生きる時、それが最もすばらしい教育となるでしょう。

今回でノーシスの入門講座のプログラムを終わります。ノーシスは、皆さんに知識を提供します。それは、皆さん自身がこの知識をもとに、自分自身で調査し、自分自身の理解をつかみとっていくためです。ですから、この通信を、そのまま信じることはありません。なにも強制するものはありません。大事なことは、一人一人が考え、判断していくことです。常に問いを持ち、忍耐強く求め続けましょう。あきらめずに、探しぬきましょう。解答は存在します。それを、手に入れましょう。

